

現場で使える！研究成果

トマト促成栽培の増枝 増収と裂果減少に効果

トマトの促成栽培では光合成を促進させるCO₂施用をはじめとした環境制御技術の導入が進む中、CO₂施用効果をさらに高め、より増収を図る技術開発が求められている。

その一つの手段として側枝を伸長させることで株全体の受光量高め、群落光合成量を増加する管理技術（以下、増枝）がある。特に日射量が少くなる春先に増枝を行うことで、枝数や葉数の増

加による収量向上と果実への遮光による裂果の減



増枝あり 増枝なし

増枝法の仕立て模式図

表 トマトの増枝処理が収量性と裂果に及ぼす影響

増枝処理	商品果果数 (千果/10a)	商品果収量 (t/10a)	裂果率 (%)
あり	159	26.5	8.8
なし	135	23.8	13.1

少が期待できる。通常のトマト栽培では養分の分散を防ぎ日当たりをよくするため発生する腋芽をすべて除去するが、増枝は腋芽を1本残し伸長させて側枝とする

手法だ。本試験では県の主要品種「麗容」を用い、1月中旬に開花花房直下の腋芽を伸長させる株中1株を増枝したところ、増枝しなかった株に比べ5月から6月の商品果収量が増加し、栽培期間を通じた商品果の果数と収量が増加した。また、増枝処理をした株は裂果の発生が減少した。

このように増枝は促成トマト栽培での増収と裂果対策に活用できるが、増枝することで通気性が低下し病害が発生しやすくなるので注意する必要がある。

（長崎県農林技術開発センター 農産園芸研究部門 田崎里歩）